

義務教育学校の他市事例（岐阜県内）

岐阜県内における義務教育学校及び小中一貫校の取り組み事例について以下に整理する。

No.	市町村	対象学校	学校形態	開校年（予定）
1	岐阜市	○藍川小学校、藍川北中学校	義務教育学校	令和 7 年度
		○芥見東小学校、藍川東中学校	義務教育学校	令和 8 年度
		○厚見小学校、厚見中学校	小中一貫校 (施設分離型)	令和 2 年
2	大垣市	○大垣市立上石津学園 1 つの中学校（上石津中）と 4 つの小学校（多良小・時小・一之瀬小・牧田小）を統合	義務教育学校	令和 6 年
3	多治見市	○笠原小学校、笠原中学校を統合	義務教育学校	令和 8 年度
4	北方町	○北方町立北学園	義務教育学校	令和 5 年
		○北方町立南学園	義務教育学校	令和 5 年
5	羽島市	○桑原小学校、桑原中学校を統合	義務教育学校	平成 29 年
6	白川村	○白川小学校、白川中学校を統合	義務教育学校	平成 29 年
7	関市	○関市 3 地区の小中校編成 小中学校：現在の 26 校を 17 校に再編 小学校→9 校、中学校→5 校、義務教育学校 0→3 校 ○令和 6 年度中に学校規模適正化計画を策定	義務教育学校 (予定)	計画中

市町村名	岐阜市	
【概要】		
・平成20年度より、「小中一貫教育推進事業」を開始。		
・義務教育9年間の教育活動を連続したものとして捉え、小中学校の全教職員が共通理解した指導を行い、学校間・校種間の枠を超えた一貫した指導を推進。		
・令和2年度より、岐阜市型小中一貫校を指定。		
	藍川小学校＋藍川北中学校	芥見東小学校＋藍川東中学校
開校時期	R7.4 開校予定	R8.4 開校予定
設置場所	藍川北中学校	芥見東小学校
利用しない校舎・体育館・武道場・運動場等	藍川小学校（校舎・体育館・運動場等）	藍川東中学校（校舎・体育館・武道場・運動場等）

※利用しない校舎等は、教育財産の用途を廃止。
施設のあり方（夜間開放、避難所等）については、今後検討。

平成27

平成28

平成29

平成30

令和元

令和2

令和3

藍川北中
藍川小

厚見中
厚見小

藍川東中
芥見東小

※中学校英語教諭に兼務発令

※中学校英語教諭に兼務発令

※小中交流活動の実践

岐阜市型小中一貫校に

岐阜市型小中一貫校に

岐阜市型小中一貫校に

【岐阜市における小中一貫校の取り組み】

小中ギャップの解消

■児童生徒交流

・児童会・生徒会交流

・挨拶運動

・よさ見つけ

・職場体験

■教職員の連携

・生徒指導、教育相談、いじめ・不登校問題についての児童生徒の情報交流

・管理職、教務主任、生徒指導主事、いじめ対策監、ハートフルサポーター等、役職別の交流



工夫して行う
あいさつ運動



オンラインで
中学生が小学生に
発信している姿



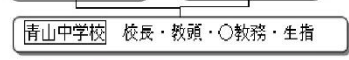
職場体験で
教師体験している姿



常盤小学校
校長・教頭
○教務・生指



黒山小学校
校長・教頭
○教務・生指



青山中学校
校長・教頭・○教務・生指

小中一貫教育推進本部

指導の一貫性の確保 (子どもの学びの一貫性)

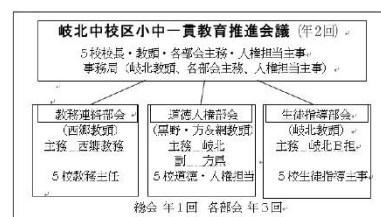
■学習指導改善の取組

- ・学習指導に係る交流
(授業の進め方やノート指導、家庭学習指導等)
- ・共同授業研究、校内研究の交流
- ・小中乗り入れ指導、教科担任制による指導



■生徒指導、教育相談の充実に向けた取組

- ・生徒指導、教育相談等に係る合同研修会の実施
- ・小中合同活動の企画、運営



社会性機能の強化

■児童生徒による地域活動

- ・地域での児童生徒の交流
- ・防災訓練、清掃活動、ポランティア活動



コロナ禍でも
工夫をして
中学校区で
地域連携



■地域からの学校支援

- ・コミュニティスクールを生かした教育活動の支援
- ・地域からの子どもの価値付け、学校教育への参画



※令和2年から「岐阜市型小中一貫校（施設分離型）」の取組を行ってきたものの、様々な課題が見えてきたため、藍川小・藍川北中、芥見東小・藍川東中の2組については「義務教育学校（施設一体型）」に方向転換した。

課題1：9年間を通じた教育課程の編成に苦慮

○小・中学校の施設が分かれている。

⇒学校間の移動や授業等の準備に関し、児童生徒・教員の移動の負担が大きい。

○小・中学校の教職員組織が分かれている。

⇒全教職員の意思統一が容易ではない。

課題2：児童生徒の集団規模の確保が必要

○藍川小・藍川北中、芥見東小・藍川東中

⇒児童生徒数が急減。

○中学校で全学年単学級化が見込まれる。

⇒校内に全9教科の教科担任が揃わない。藍川北中:令和9年～、藍川東中:令和11年～

市町村名	大垣市
学園名	大垣市立上石津学園

【概要】

- ・2024 年、大垣市上石津地域の 1 つの中学校（上石津中）と 4 つの小学校（多良小・時小・一之瀬小・牧田小）を統合し開校。
- ・大垣市及び西濃地域で最初の公立義務教育学校である。
- ・校舎は旧・上石津中学校の施設を改修した建物である。また、校歌は旧・上石津中学校の校歌を使用する

【沿革】

- ・2021 年（令和 3 年）3 月 大垣市教育委員会が上石津地域の小中学校 5 校を統合し、義務教育学校 1 校を新設する方針を固める。
- ・2023 年（令和 5 年）6 月・校章が決まる。
- ・2024 年（令和 6 年）4 月 1 日開校。開校時の生徒数は 274 人。



学校の教育目標

きづく

予測し、多面的にとらえ、試行錯誤して考える力



うごく

心身ともに健康で、自分の考えや感性をのびのびと表現する力



みがき合う

他を思いやり、仲間と切磋琢磨しながら自己を高める力



目指す児童生徒像

【予測困難な時代において】

夢や目標の実現に向けて力強く歩み出し、
豊かに人生を切り拓いていく児童生徒

【人口減少が続く上石津地域において】

グローバルと多様性に豊かに対応していく児童生徒

※グローバル…グローバルとローカル

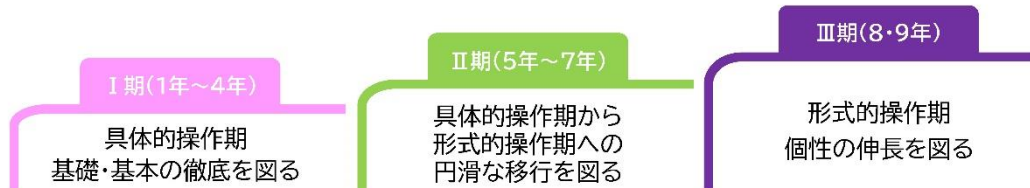


教育推進のコンセプト

義務教育9年間で3期に分け、児童生徒の発達段階を十分に踏まえた、
計画的・継続的な教育課程を編成し、指導の充実を図ります。

異年齢集団による協働学習を計画的・継続的に実施し、
児童生徒の自発的成長を促します。

複数の教師で複数の学級・学年を担当する「チーム担任制」を実施し、
一人一人に応じたきめ細かな支援をチームで行います。



特色 1

自ら学び、考える力を育てる教科の学習

一人一人に確かな学力(自ら学び、考える力)を育成します。

- ・各教科等の学習内容の関連性、
学年間の系統性等を踏まえた指導計画
- ・学力向上に、より望ましい学習習慣の確立と学習集団の育成
- ・人間関係調整力を高める「話し合い活動」の確実な位置付け
- ・各教科における探究的な学習の推進
- ・段階的な教科担任制の導入



I 期				II 期			III 期	
1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級担任制 教科の学び方・ 学習習慣の形成				教科担任制 より広く、多様に考え、 深く学ぶ授業を実施				

特色 2

探究的な学びを身に付け、 実践力・推進力を育てる総合的な学習の時間

探究的な学習活動を充実させ、
主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育成します。

- ・「どうしても」、「なぜだろう」、「本当にそうかな」、「一番大切なことは何かな」、「私たちはどうあるべきかな」と児童生徒が自ら考え、活動し続ける学習
- ・【課題設定】、【情報収集】、【整理・分析】、【まとめ・表現】しながら、協働的に問題解決する探究的な学習過程
- ・地域人材や地域素材の活用、企業や関係機関との連携、ICT の活用等
- ・児童生徒が自身の「探究的な学習」の状況を評価
- ・探究的な学びの形態の工夫



Ⅰ期		Ⅱ期			Ⅲ期	
3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
学級や生活班での探究		・同学年で共通テーマの探究 ・同学年でテーマ別に探究 ・異学年集団でテーマ別に探究			個人テーマの探究	
					異学年での成果交流	

特色 3

豊かな道徳性や人間性を醸成する教育活動

人とのつながりを大切にした教育活動を展開し、
他を思いやり、協力して物事を成し遂げようとする態度を育成します。

- ・目的や内容に応じて編制した集団や設定した人とのつながり

異年齢集団での活動 	全校(1～9年)	たてわり掃除 スポーツフェスティバル 等
	各期内 (1～4年、5～7年、8・9年)	総合的な学習の時間 学習活動 等
	各期を越えた組み合わせ	若狭研修(5・8年生合同 宿泊) 進路学習 総合的な学習の時間 等
総合的な学習の時間 校外学習や修学旅行 宿泊研修 等	・学習テーマに関連ある人々、高校、大学、企業、関係機関等から学ぶ ・上石津地域、大垣市、県内・全国各地から学ぶ	
職業講話 (PTA 共催事業)	・上石津とつながりのある人々から、夢や目標の実現について学ぶ	

市町村名	多治見市
学園名	多治見市立笠原小中学校

【概要】

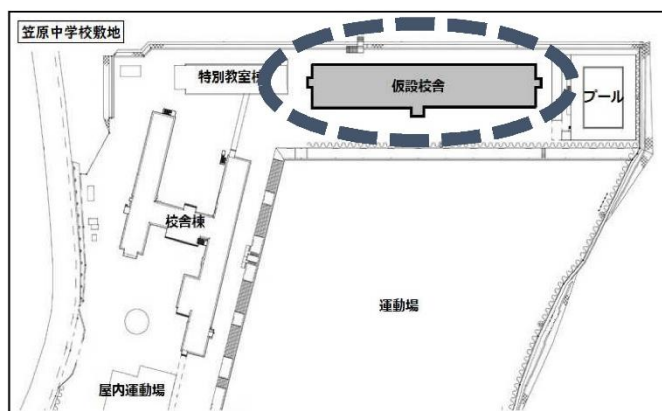
- ・笠原中学校と笠原小学校とを統合し、義務教育学校の多治見市立笠原小中学校となる。校舎は現在の笠原小学校の敷地内に新築し、令和8年度の開校を計画している。
- ・笠原小中学校の新校舎の建設により従来の小学校校舎は解体されるため、2024年と2025年の2年間は、笠原中学校敷地内に建設される仮校舎を使用することになる。



- ・令和8年4月の開校を目指す（仮称）笠原小中学校の建設工事を開始。
- ・新しい学校は現在の笠原小学校敷地に建設。令和5年度は、既設小学校校舎の外壁アスベストの除去、令和6年度から7年度は、既設小学校校舎の解体撤去・新校舎の建設を実施。

- ・新しい学校ができるまで、小学校の仮設校舎を中学校の敷地内に設置。
- ・小・中9学年が1つとなる新しい学校への準備期間として、一緒に中学校敷地で学校生活を送ることになります。仮設校舎の建設工事は令和5年度中に実施。
- ・小学校の仮設校舎での授業は、新校舎建設工事中の令和6年度から7年度の約2年間。

○ 笠原小学校の仮設校舎を中学校の敷地内に建設します



【沿革】

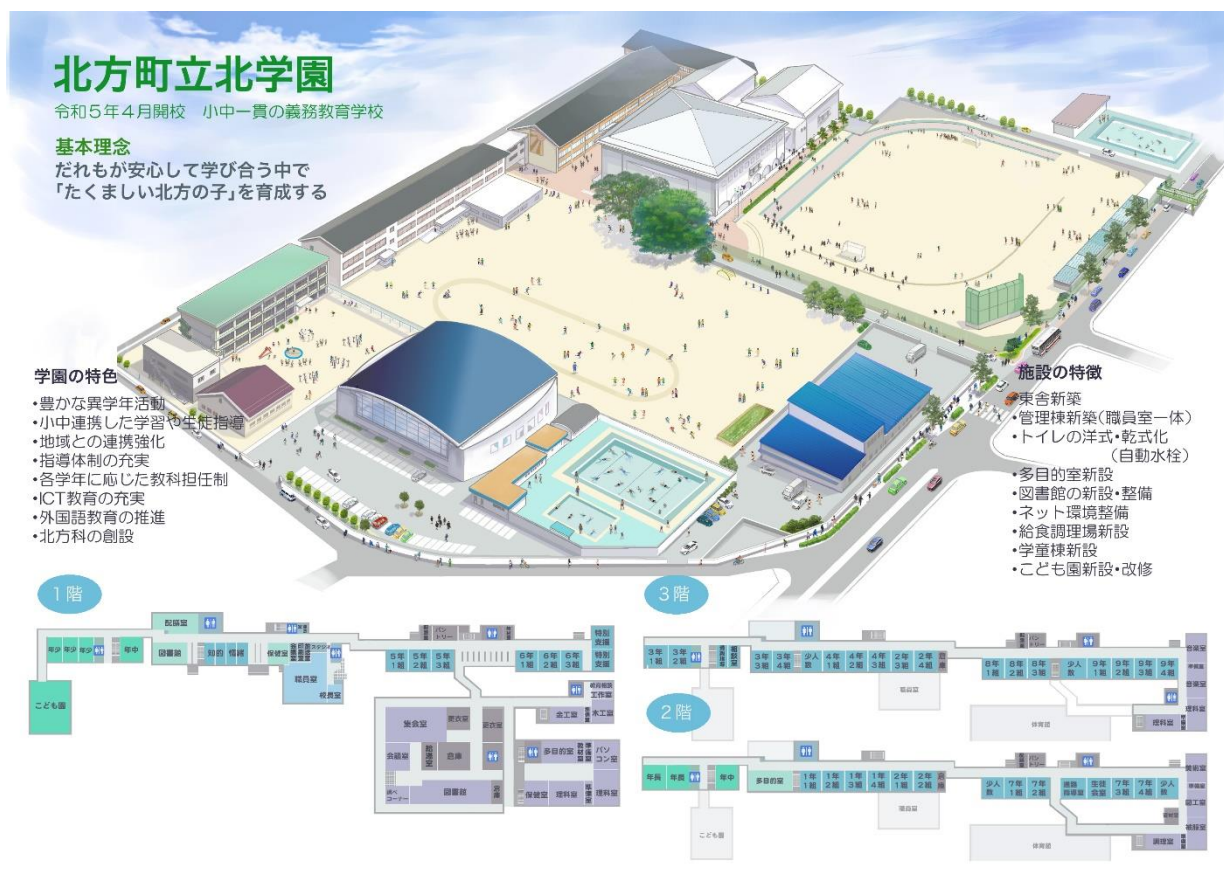
- ・1947年（昭和22年）4月 笠原町立笠原中学校として開校。笠原第一小学校の校舎の一部を仮校舎とする。1948年（昭和23年）10月 新築移転。
- ・1951年（昭和26年）4月1日 笠原町が多治見市に編入される。同時に多治見市立笠原中学校に改称する。
- ・1974年（昭和49年）9月 現在地に新築移転。
- ・2002年（平成14年）笠原小学校との小中一貫教育を開始。
- ・2006年（平成18年）1月23日 笠原町が多治見市に編入される。同時に多治見市立笠原中学校に改称する。

〔出典〕 多治見市ホームページ

市町村名	北方町
学園名	北方学園

【概要】

- ・北学園 2023 年（令和 5 年）4 月開校。開校時の児童生徒数は 1,057 人。
- ・南学園 2023 年（令和 5 年）4 月開校。開校時の児童生徒数は 501 人。
- ・敷地内には幼保連携型認定こども園の北方町立こども園（2023 年 4 月開園）が設置されており、幼保小中一貫教育が行われている。
- ・2018 年（平成 30 年）、北方町の 3 つの小学校（北方小学校・北方西小学校・北方南小学校）と 1 つの中学校（北方中学校）を 2 つの義務教育学校に再編する「北方学園構想」が町長により施策決定され、2019 年（令和元年）6 月に北方学園構想の基本計画が取りまとめられる。これにより北方小学校と北方西小学校の通学区域に義務教育学校（北学園）を設置することとなる。
- ・校地は北方小学校と北方中学校の校地を転用し、校舎は従来の北方小学校と北方中学校の校舎の一部を転用。北方小の東舎と北方小学校管理棟は取り壊され、北学園管理棟、こども園の管理棟兼保育室を新築。給食調理場の新築。北方小の北舎はこども園の園舎に改築などが行われた。
- ・北学園及び南学園を合わせて、北方学園と称する。



北方町立南学園

令和5年4月開校 小中一貫の義務教育学校

基本理念

だれもが安心して学び合っ中
「たくましい北方の子」を育成する

学園の特色

- 豊かな異学年活動
- 小中連携した学習や生徒指導
- 地域との連携強化
- 指導体制の充実
- 各学年に応じた教科担任制
- ICT教育の充実
- 外国語教育の推進
- 北方科の創設

施設の特徴

- 特別教室棟新築
- 管理スペース改築
(職員室一体)
- 東側運動場の拡充
- トイレの洋式・乾式化
(自動水栓)
- 多目的室新設
- 図書館の拡張・整備
- ネット環境整備
- 学童棟新設

1階



2階



3階



北方学園の教育

【基本理念】誰もが安心して学び合える学園

【北方学園の教育目標】9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む

深い学び

主体的な姿勢

【学習意欲の向上】

- ◆教科担任制の拡充
・専門性の高い授業の実施
- ◆小中一貫した学習計画の実施
・先取りと学び直しの効果的な設定
- ◆ICTの活用
・興味・関心を高める教材提示

安心・安全

共に生きる姿勢

【落ち着いた生活】

- ◆9年間を通じた児童生徒理解
・安心して学び合える集団づくり
- ◆異学年交流の充実
・多様な交流による豊かな心の育成
- ◆家庭や地域と共に育む取組
・コミュニティ学園の活動推進

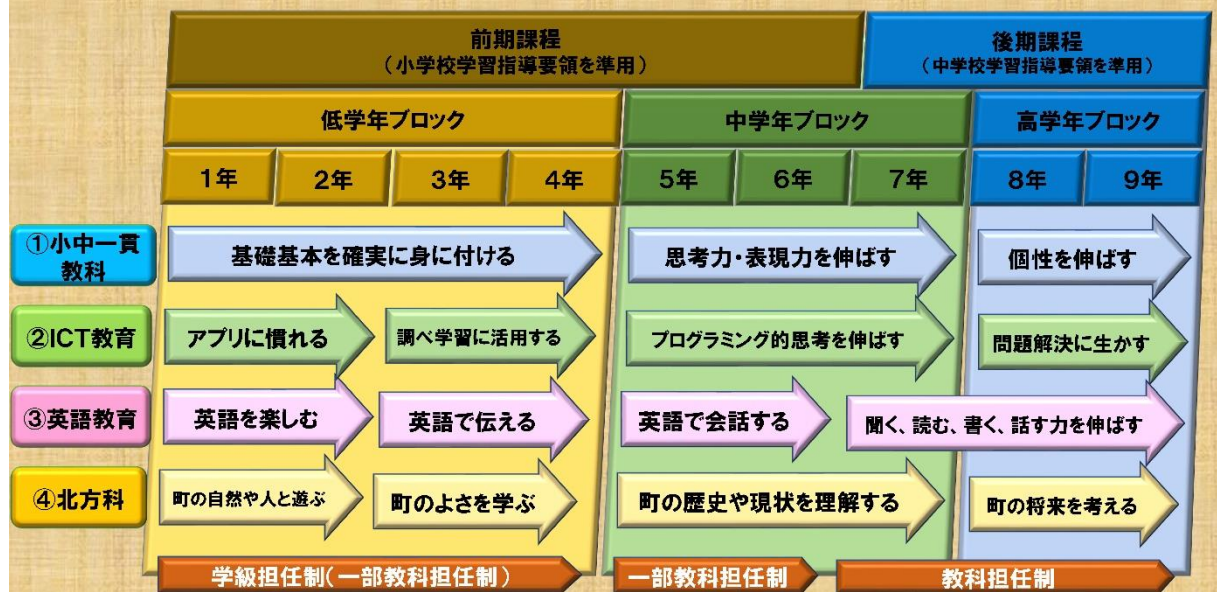
誇り・自信

やり抜く姿勢

【特色ある教育】

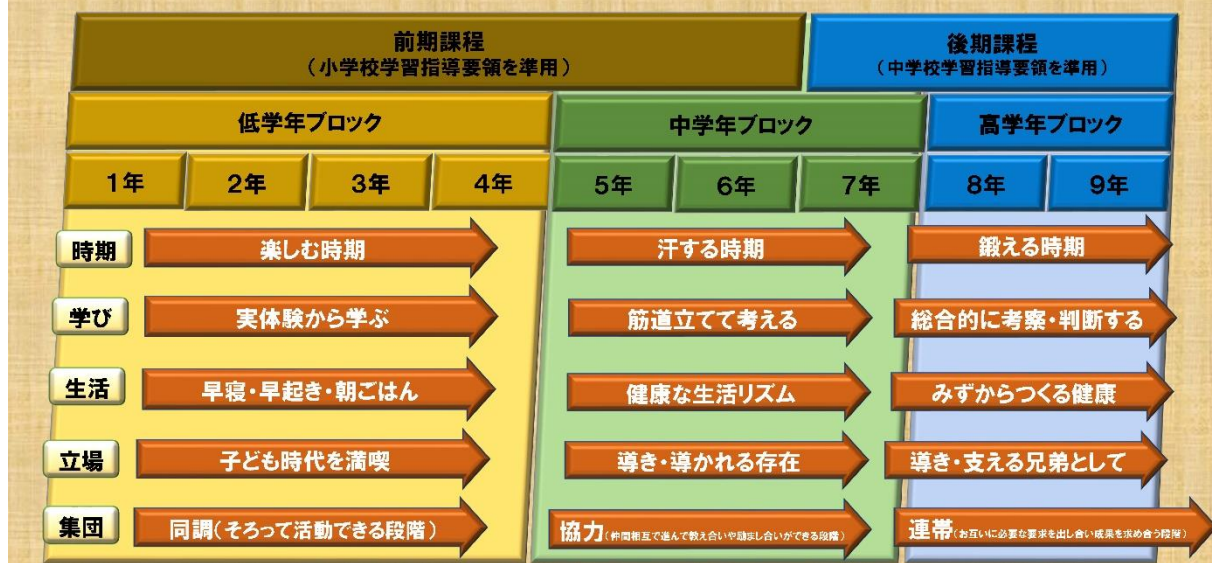
- ◆英語教育の充実
・コミュニケーション能力の向上
- ◆平和・ふるさと学習の推進
・9年間の系統的な学習の実施
- ◆学校間、校種間の交流
・視野を広め、自ら高める姿勢づくり

北方学園における4つの特色ある教育



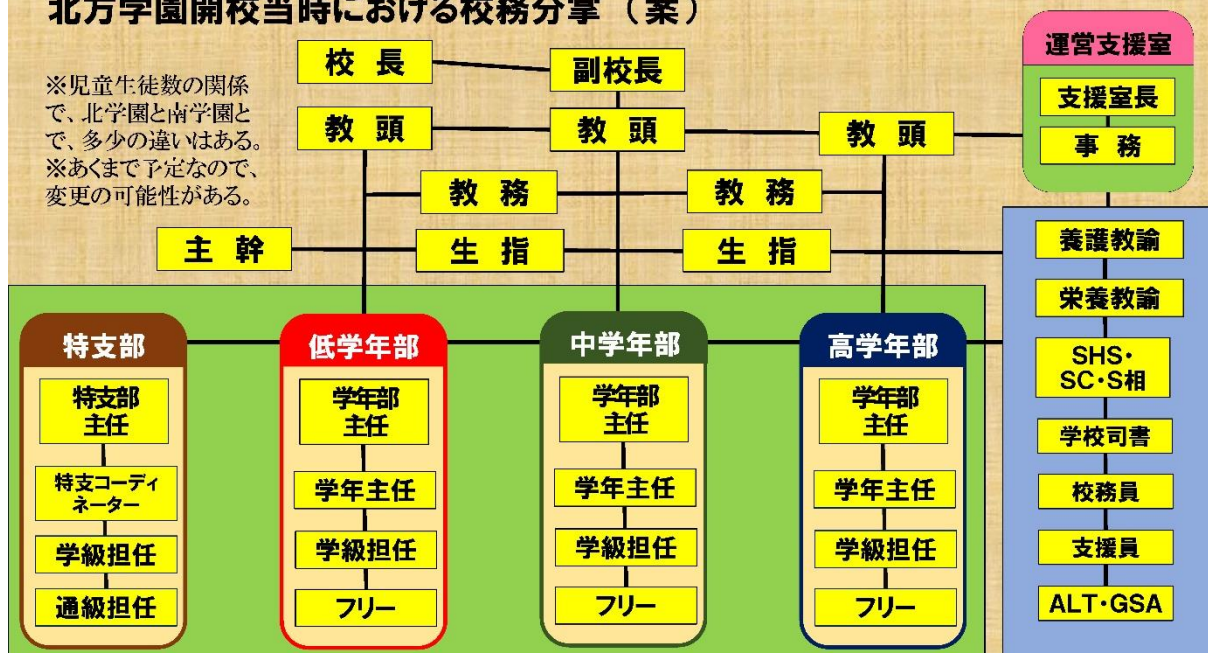
児童生徒の発達の段階を考慮した 北方学園におけるブロック分け

【北方学園の教育目標】
9年間を通して、「たくましい北方の子」を育む



北方学園開校当時における校務分掌（案）

※児童生徒数の関係で、北学園と南学園とで、多少の違いはある。
※あくまで予定なので、変更の可能性はある。



北方学園の日課表について

日課表(通常日課)

後期課程(7～9年生)		前期課程(1～6年生)
8:10 ～ 8:20	読書	8:10 ～ 8:20
8:20 ～ 8:30	朝の会	8:20 ～ 8:30
8:40 ～ 9:30	①	8:40 ～ 9:25
9:40 ～ 10:30	②	9:35 ～ 10:20
	中休み	10:20 ～ 10:35
10:40 ～ 11:30	③	10:40 ～ 11:25
11:40 ～ 12:30	④	11:35 ～ 12:20
12:30 ～ 13:05	給食	12:20 ～ 13:00
13:05 ～ 13:25	昼休み	13:00 ～ 13:25
13:30 ～ 13:45	掃除	13:30 ～ 13:45
13:55 ～ 14:45	⑤	13:55 ～ 14:40
14:55 ～ 15:45	⑥	14:50 ～ 15:35
15:55 ～ 16:10	帰りの会	15:40 ～ 15:55

日課表(短縮日課)

後期課程(7～9年生)		前期課程(1～6年生)
8:10 ～ 8:20	読書	8:10 ～ 8:20
8:20 ～ 8:30	朝の会	8:20 ～ 8:30
8:40 ～ 9:25	①	8:40 ～ 9:20
9:35 ～ 10:20	②	9:30 ～ 10:10
	中休み	10:10 ～ 10:25
10:30 ～ 11:15	③	10:30 ～ 11:10
11:25 ～ 12:10	④	11:20 ～ 12:00
12:10 ～ 12:45	給食	12:00 ～ 12:40
12:45 ～ 12:55	片付け	12:40 ～ 12:55
13:00 ～ 13:10	掃除	13:00 ～ 13:10
13:20 ～ 14:05	⑤	13:20 ～ 14:00
14:15 ～ 15:00	⑥	14:10 ～ 14:50
15:10 ～ 15:25	帰りの会	14:50 ～ 15:05

- ・北学園は、バス通学の児童がいるため、バスの時間(15:20)に間に合うように、6時間目後、すぐに帰りの会とし、時間を調整した。そのため、前期課程の6時間目は、担任授業としたい。
- ・前期課程中休みの終わりに、通常と違うチャイムまたは音楽を流す。

[出典] 北方町・北方学園ホームページ

No. 5

市町村名	羽島市
学園名	羽島市立桑原学園
【概要】 ・大野郡白川村の白川村立白川郷学園と並び、岐阜県で初めての義務教育学校として 2017 年（平成 29 年）4 月に開校。 ・小学校に該当する 6 年間を前期課程、中学校に該当する 3 年間を後期課程としている。 ・前期課程は旧・羽島市立桑原小学校、後期課程は旧・羽島市立桑原中学校の校舎にて行われている。 【沿革】 ・2016 年（平成 28 年）9 月 27 日 設立準備委員会が発足。 ・2017 年（平成 29 年）4 月 1 日 羽島市立桑原小学校と羽島市立桑原中学校を統合し、羽島市立桑原学園として開校。9 月校章デザイン公募。 ・2018 年（平成 30 年）1 月 新しい校章制定（在校生のデザイン案をもとにして作成）。 ・2019 年（平成 31 年・令和元年）4 月・学校運営協議会において学園歌の歌詞原案作成。 7 月 学園歌歌詞を学校運営協議会として決定。 9 月 学園歌作曲完成	

[出典] 羽島市ホームページ

No. 6

市町村名	白川村
学園名	白川村立白川郷学園
【概要】 ・白川村立白川郷学園は、岐阜県大野郡白川村にある公立の義務教育学校。 ・羽島市の羽島市立桑原学園と並び、岐阜県で初めての義務教育学校として 2017 年（平成 29 年）4 月に開校。同年 4 月 5 日に開校式が行なわれた。 ・学校独自のプログラムとして「ふるさと学習」「しらかわ人学」「英語学習」がある。 ・校舎は白川小学校と白川中学校の施設をそのまま利用。校舎が隣接していることもあり、間に通路（ふれあいブリッジ）で結ばれ、玄関も 1 箇所統一されている。 ・就学区域は白川村全域であるが、小白川地域の児童は、富山県南砺市の上平小学校及び平中学校に委託している。 【沿革】 ・2011 年（平成 23 年）白川小学校と白川中学校で小中一貫教育を開始。「小中一貫教育校 白川郷学園 白川小学校 白川中学校」となる。 ・2012 年（平成 24 年）白川村が義務教育学校の設置条例を制定。 ・2013 年（平成 25 年）白川村内の保育園（白川保育園、平瀬保育園）が白川村教育委員会管轄となる。保小中一貫教育を開始。 ・2017 年（平成 29 年）白川小学校と白川中学校を統合し、義務教育学校の白川村立白川郷学園として開校。	

[出典] 白川村ホームページ

市町村名	関市
学園名	-
【概要】関市の学校再編成について ○ここ数年の関市の小中学校の統廃合状況について ・平成 28 年 4 月 板取川中学校開設（板取中学校と洞戸中学校を合併） ・平成 28 年 4 月 津保川中学校開設（上之保中学校と武儀中学校を合併） ・令和 3 年 4 月 武儀小学校開設（武儀西小と武儀東小を統合） ・令和 5 年 4 月 武芸小学校（寺尾小を武芸小に吸収合併） 以下、岐阜新聞より（令和 6 年 3 月 22 日）「関市に義務教育学校」（市議会全員協議会で） ○関市 3 地区の小中校編成 ・小中学校 現在の 26 校を 17 校に再編 （小学校→9 校、中学校→5 校、義務教育学校 0→3 校） ・再編検討校区 児童生徒数は令和 5 年 5 月 1 日 板取川中学校区 児童生徒数 136 人 板取川中学校 42 人 洞戸小学校 79 人 板取小学校 15 人 武芸川中学校区 児童生徒数 413 人 武芸川中学校 150 人 博愛小学校 165 人 武芸小学校 98 人 津保川中学校区 児童生徒数 184 人 津保川中学校 73 人 武儀小学校 88 人 上之保小学校 23 人 ・再編時期 今後詰める ・板取川地区、津保川地区 地元や保護者の要望があれば小学校の再編を優先する ・その他の学校の集約 旭ヶ丘小学校 322 人と富野小学校 74 人 倉知小学校 401 人と南ヶ丘小学校 82 人 旭ヶ丘中学校 392 人と富野中学校 48 人 ・経緯 令和 5 年 5 月 「市学校規模適正化審議会」に諮問 令和 6 年 1 月 答申を受ける 3 月 22 日から 5 月 7 日までパブリックコメント 5 月から 7 月に各中学校区で住民説明会 2024（令和 6）年度中に計画を策定する。	



関市に義務教育学校

市教委方針 3地区の小中校再編

関市教育委員会は21日の市議会全員協議会で、少子化に伴い、市内の小中学校を現在の26校から17校に集約する方針を示した。市内3地区では小中学校3校をそれぞれ再編し、市内で初めての小中一貫の義務教育学校を設置する。希望すれば隣接する区域内の学校に通学できる学校選択制を市全域に導入する。市教委が全員協議会で示した学校規模適正化計画案が明らかになった。

(高橋友基)

学校選択制、全域で導入

計画案によると、義務教育学校として再編を検討しているのは▽板取川中学校区が板取川中、酒戸小、板取小▽武芸川中学校区が武芸川中、博愛小、武芸小▽津保川中学校区が津保川中、武儀小、上之保小の各3校。再編時期は今後詰

める。板取川中学校区、津保川中学校区では地元や保護者の要望があれば、小学校の再編を先行する。

それ以外の学校の集約では、旭ヶ丘小と富野小、倉知小と南ヶ丘小、旭ヶ丘中と富野中を再編。実施時期は26年度以降の見通し。

市内の児童生徒は、少子化で減少傾向が続く。小学生は2029年度に23年度から11138人減の3060人、中学生は35年度に23年度から1057人減の1380人になることが見込まれる。23年度は、小中26校のうち半数超が国の適正規模に満たない小規模校以下で、適正化が最務となっている。

学校選択制では、従来の通学区域を残しつつ、隣接する区域内の希望する学校に通学できる「隣接区域選

択制」を採用する。26年度に実施する予定。

学校規模適正化計画を巡っては、市教委は昨年5月に学校の適正規模、配置について「市学校規模適正化審議会」に諮問し、今年1月に答申を受けた。今月22日から5月7日まで、計画案のパブリックコメントを実施し、5～7月に各中学校区で住民説明会を行い、24年度中に計画を策定する。

下で、適正化が最務となっている。